

1. 園の教育目標

- ・教育の根源である宗教、道徳の基盤たるカトリック教義に基づき、教育基本法及び学校教育法により、幼児を保育し適当な環境を与えて、その発達を助長する。
- めざす子ども像として以下の6項目を掲げる
- 1、手を合わせる心を育てる。 2、返事・挨拶が素直にできる。 3、何事にもくじけず心も体も強い子に。
6、思いやりのある心を育てる。 5、人の痛みのわかるやさしい人。 6、誰とでも仲良くする子ども。

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標

- ・全身を使った遊びや活動を繰り返し楽しんだり、挑戦したりする中で多様な動き、洗練した動きを獲得する。
- ・友だちと一緒に、思いっきり体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健やかな心を育む。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
・教師間で幼児の観察、気付きを共有し、その姿を多面的に捉えよりよい保育に繋げていく	・個々の健康状態の把握をはじめ生活や遊び、友だちとの関わりの中で起こった出来事をいつでも職員間で報告、連絡、相談し合える環境を作ってきた。そうした環境作りを心掛けていくことで新たな子どもの姿や思い、考えに気付かされたり、共感したりしながら保育を行い、個々への関わり方を見出すことが出来た。
・支援を必要とする子どもが抱えている困難さについて学び、集団の中で出来る事や環境構成を考える	・療育機関と密に連携をとることは難しかったが、集団生活における子どもの困り感を把握し、職員同士でどのような手立てが適切か、スモールステップを踏みながら成長を促していけるか考えながら実践してきた。又、保護者の方にも保育時間や行事等での協力を含め、療育状況や家庭での様子、体調面等細めに情報を聞きながら保育に努めてきた。
・園児が安全に過ごせるよう防犯安全の強化と施設・遊具点検を徹底する	・月初めに行う園内、園舎周りの点検と登園前に行う遊具点検は怠ることなく実施してきた。園庭で遊んでいる時に起こっている時に起こってしまったケガ、その瞬間を教師が見ていなかった時は、子どもからの聞き取りと防犯カメラの録画機能を使って状況確認することもあった。
・発達年齢に合った、幼児の生活が豊かになるような指導計画を立てると共に先を見通した準備を進めていく。	・お仕事の中で縫う、文字や数の読み書き、日本地図や世界の国旗等、新たなことに興味関心が湧いてきた時には力を伸ばしていける様、満足できる様その都度準備してきた。 ・行事や絵画制作活動に必要な準備は進捗状況を互いに確認しながら進めてきた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・今年度の重点目標は「運動」ということで各学年、年齢に応じた体の動きについて知識を習得し、それらの動きを活かした遊びはどのようなものがあるかを考え、計画し保育活動を行ってきた。
- 線上市行や柔軟体操、かけっこ、リレー、マラソン、用具を使った遊び等、体のバランスを維持する力や集中力、競争心、協調性を育み、友だちや教師と一緒に体を動かす楽しさや心地良さを味わうことが出来た。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
・食育活動を通して食の楽しさや大切さを学んでいく。	・命を頂く感謝の気持ちや旬の食べ物から季節の移り変わりを感じる心、五感の働きを通して食事が楽しい、美味しいと感じる感覚を育てていくようにする。又、基本的なマナーを教える。 ・実体験や分かりやすい言葉、イラスト等を用いてイメージしやすくなる様工夫していく。
・教職員同士の協力・連携について	・日常の保育や行事等が円滑に進んでいく様、職員全体でよく話し合い、共通理解を持って工夫し対応するようにしていく。 ・クラスに関係なく、その場にいた教師が子どもに適切な言葉かけ、対応を行い情報共有していく。
・子育て支援について	・昨今の社会状況を踏まえ、子どもが安心して遊ぶことが出来る場、保護者交流の場としてにこにこランドやオリーブの充実を図る。 今年度末にとった利用者へのアンケート結果を参考に、来年度の計画を立て、登録者、利用者の増加に繋げていく。